あいさつ

石山　信郎　（文部科学省 研究開発局 地震・防災研究課 防災科学技術推進室 室長補佐）

本日はご多忙にもかかわらず、各業界においてご活躍の皆さまにオンラインで視聴参加いただき、心より感謝申し上げます。令和 2 年度第 1 回デ活シンポジウム開催の冒頭に当たり、7 月からの記録的な豪雨によりお亡くなりになられた方々、その遺族の皆さまに対し、謹んでお悔やみ申し上げます。また、被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

今回のシンポジウムのタイトルは、「COVID-19 禍での事業継続体制における『データ利活用の意義』とは何か」です。このコロナ禍においても、災害対応においてニューノーマルが求められています。感染症対策が行われ、人が物理的に集まることができないという制約がある中で、広域に影響が及ぶような甚大な災害が発生した場合、従来の事業継続計画で対応できるかどうかという課題があると思います。それに対し、各機関の持つデータを共有し、利活用することで、危機を乗り越える可能性が広がるのではないかという考え方は、そもそも本プロジェクトの大きなテーマであり、本シンポジウムは、この考え方の有効性を再確認する機会であると考えています。

昨年度のシンポジウムは、地震災害に加えて台風、豪雨など、気象災害もターゲットとして実施してきました。レジリエンス総合力向上への取り組みをより進化させるために、本日の議論が有意義なものになることを祈念して、私のあいさつとさせていただきます。皆さん、本日はよろしくお願いします。

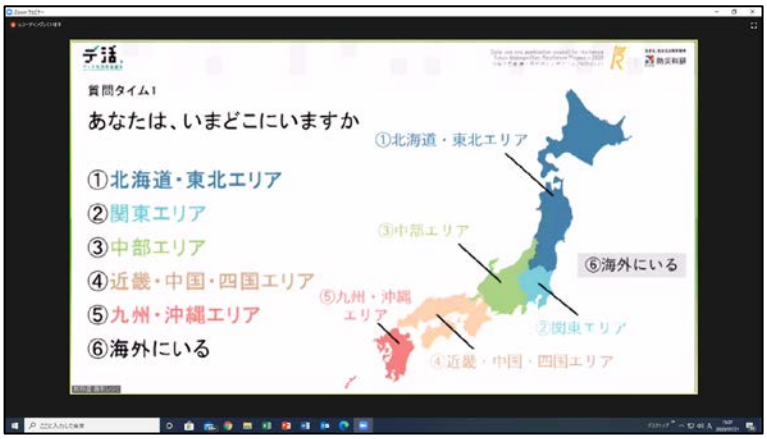
（司会：下村）　石山室長補佐、ありがとうございました。今の話にもありましたが、去年は今までの地震災害から台風災害に枠が広がり、さらに今回は感染症まで視野が広がっており、社会の変化に合わせながら、このシンポジウム自体も進化を続けています。

では早速、練習を兼ねてアンケートを実施してみたいと思います。第 1 問は、「皆さんは今、どこから視聴されていますか」ということです（図表 1)。①北海道･東北エリア、②関東エリア、③中部エリア、④近畿・中国・四国エリア、⑤九州・沖縄エリア、⑥海外ということで、ウェビナーでご覧の方は番号でお答えください。画面の中から一つ選んで押していただいた後、「送信」ボタンをクリックしてください。では、お願いします。

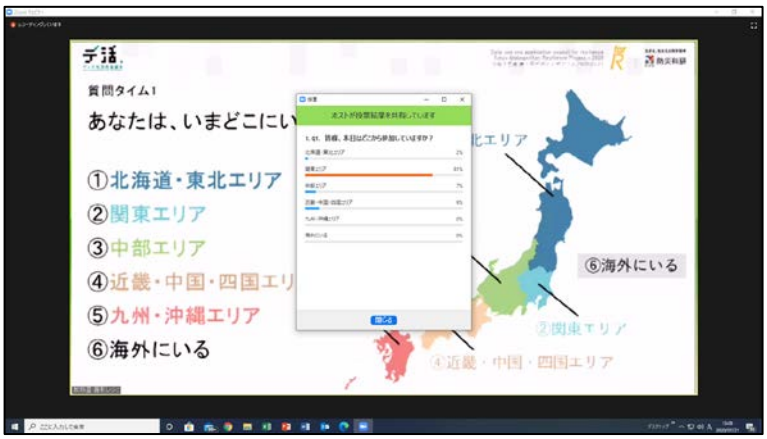
この質問自体が、今までは会場だけだったのが、どこからでも参加していただけるということを象徴しています。

結果が出ました（図表 2)。やはり関東エリアがかなり多いですが、散らばっています。今のところ海外の方はいませんが、この後、参加が増えることを期待しています。近畿・中国・四国エリアも結構多いです。8 割の方が関東エリアで、九州・沖縄エリアの方はまだいませんが、この後ぜひ参加していただきたいと思います。

このような感じで時々こちらから質問を投げ掛けますので、ぜひご協力ください。チャットでの質問も受け付けています。



1



2